

建築士 やまなし

No.72

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



山梨文化会館前交差点

●目次●	ごあいさつ 山梨県県土整備部長 垣下 禎裕	2
	平成29年度 山梨県建築士会通常総会報告	3
	平成29年度 関プロかながわ箱根大会参加報告	
	青年部長 渡辺 省三・都留支部 尾曲 章・青年部副部長 長坂 治	4・5
	建築探訪『新世界通り復活プロジェクト』 小林 進	6・7
	女性部会「みつめなおそう山梨 in 南アルプス市 & 韮崎市」バスツアーに参加して 広瀬 喜美子	8
	関プロ神奈川大会に参加させて頂いて 堤 美鈴	8
	事務局よりお知らせ	9

ごあいさつ

山梨県県土整備部長

垣下 禎 裕



厳しい暑さの続く毎日ですが、山梨県建築士会の皆様には、御健勝の日々をお過ごしのことと存じます。また、日頃から建築防災や景観に配慮したまちづくりなど、本県の建築行政推進の様々な場面において御理解、御協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、この7月の九州北部の豪雨災害は記憶に新しいところですが、近年頻発する異常気象による豪雨・豪雪や台風災害、東日本大震災や熊本地震といった大規模地震災害や富士山噴火など、近い将来発生が懸念される大規模な自然災害に備え、県では、社会インフラの整備、維持、補修などの防災対策や減災対策など災害対応力の向上を図るための様々な施策を集中的に展開しているところです。

このような中で、「住宅・建築物の耐震化の促進」は、災害に強い県土・地域づくりの重要施策の一つであり、県では、市町村と連携し、建築物の耐震診断や耐震設計・改修に対して補助を行う耐震改修支援事業を実施してきております。昨年度は、更に、避難路沿道建築物の耐震改修に対する補助や未就学児・子育て世帯などの木造住宅に対する補助を引上げ、耐震化に早期に取り組む者に対するインセンティブの付与など、耐震化のスピードアップも図る中で、補助制度の強化を行ったところです。

また、近年の人口減少や高齢化を背景に、全国的な問題となっている空き家対策も本県にとって大きな課題であります。

県では、空き家対策に取り組む市町村の支援を目的に一昨年「空き家等対策市町村連絡調整会議」を組織し、この会議を通じて、「空き家

等対策計画」のモデル計画を作成するなど、市町村への支援を行ってきたところであります。貴会には、建築の専門的な見地から空き家対策への御助言などをいただくため、昨年度より、この連絡調整会議の構成員として参加していただき、大変心強く感じております。

今後、市町村が空き家対策の具体的な計画の策定を進める中で協力等の要請がありました際には、是非とも御協力のほどをお願い致します。

本年は、2027年のリニア中央新幹線開業まで、いよいよ10年という節目の年でもあります。この世界最先端の高速交通は、国内外との更なる交流や産業創出が期待され、本県が更に飛躍していくための最大の切り札であると言えます。

こうした中、建築士の皆様には、それぞれの立場で、本県の魅力を更に高めていただけるよう期待すると共に、建築技術者としてよりよい建物づくり、まちづくりに御尽力、御活躍をいただき、知事が掲げるすべての県民が安心して暮らせる「輝き・あんしん・プラチナ社会」の実現に向けた諸施策への御協力をお願い致します。

結びに、山梨県建築士会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を祈念し、挨拶とさせていただきます。



平成 29 年度

通常総会報告

平成 29 年 5 月 25 日 (木) 10 時 30 分より甲府市朝気 1 丁目 2-2、山梨県立男女共同参画推進センター (ぴゅあ総合) 2 階大研修室において、平成 29 年度通常総会を正会員 1,080 名中 541 名 (委任状 471 名 出席者 70 名) の出席を得て開会した。(総会は、一般社団法人山梨県建築士会 定款第 22 条の規定により、正会員の 3 分の 1 以上 (360 名) に達したので開会は有効とする。)

1. はじめのことばを副会長 望月健君が述べ、物故会員の黙祷、会長あいさつを会長 雨宮健一君が述べた。

続いて、各支部より推薦された甲府支部 初鹿和久君他 8 名に対し会長より感謝状と記念品の贈呈が行われた。

次に、平成 28 年度関東甲信越ブロック会の優良建築物の表彰を受けた甲府支部の (有) 竜巳一級建築設計事務所 代表取締役 雨宮健一君へ、望月健副会長より賞状の伝達がされた。

次に、来賓 5 名を紹介し、水上文明山梨県県土整備部理事、秋山益貴甲府市建設部長より祝辞をいただき、次に、公益社団法人日本建築士会連合会の三井所清典会長からの祝電を披露し、議事に入る。

2. 議事に入る前に、一般社団法人 山梨県建築士会 定款第 20 条の規定により、会長 雨宮健一君が議長となる。

続いて議長より定款第 24 条第 2 項の規定により、議長が議事録に署名する旨を説明し、承諾を得た。

① 議事に入り、第一号議案「平成 28 年度事業報

告承認の件」並びに第二号議案「平成 28 年度収支決算報告承認の件」の両議案を一括上程し事務局より説明があった後、監事の小林一夫君より「厳正且つ適正に処理されている」旨の監査報告がなされ、議長が議場に諮ったところ全員異議なき旨の声があり、承認可決された。

② 次に、第三号議案「平成 29 年度事業計画報告の件」並びに第四号議案「平成 29 年度収支予算報告の件」の説明が事務局より行われ全員異議なく原案通り承認された。

③ 次に、第五号議案、「平成 29 年度終身会員の同意の件」について事務局より、理事会で選出された終身会員について同意を求めたところ、全員異議なく承認され、議長は議事進行に対する協力を謝して議長席を降りる。

3. 議事が終わり、副会長 進藤哲雄君がおわりのことばを述べ、ここに平成 29 年度通常総会は、11 時 30 分盛会裡に無事閉会した。

平成 29 年度 感謝状贈呈者氏名 (敬称略)

氏 名	所属支部
初 鹿 和 久	甲 府 支 部
山 崎 宗 彦	甲 府 支 部
望 月 富士夫	中巨摩 支部
永 田 貞 明	塩 山 支 部
窪 田 祥 男	石 和 支 部
保 坂 徹 也	市 川 支 部
嘉 村 和 彦	北富士 支部
佐 野 英 樹	大 月 支 部
宮 下 秋 利	都 留 支 部

平成29年度 関ブロかながわ箱根大会参加報告

青年部長 渡辺 省三

6月23・24日に箱根の湯本富士屋ホテルにて開催された「平成29年度関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会かながわ箱根大会」に参加させていただきました。

大会テーマを「継」(つなぐ)とした今年の大会は3つの分科会・大懇親会・エクスカージョンから構成されており、大会登録者数が695名という大規模な大会となりました。

第一分科会は「過去から未来へつなぐ“今”」をテーマとし、都留支部の尾曲章さん、高根葉子さんの発表「伝統継承・上棟式で地域活動」が見事、第3位を受賞しました。第二分科会は「2050年まで、住み継ぐ住まい」をテーマとし、大会前、多くの会員の協力のもと、事前課題・提案書・コンセプトの作成を行い、中巨摩支部の名取宏典さんがその発表を行いました。大懇親会では各都県の建築士仲間と交流を深め、箱根の温泉も満喫し、思い出に残る大会となりました。

来年は栃木大会です。また更に多くの仲間と参加できるよう、今後の活動を充実させていきたいと思っておりますので、会員の皆様の御協力をお願い致します。



全体会議1・神奈川県建築士会 会長あいさつ



全体会議2・第二分科会表彰式



23日 集合写真



栃木大会への誘い



懇親会余興

第一分科会発表報告

都留支部 尾曲 章

私は今回山梨県代表で、第1分科会『過去から未来へつなぐ今』というテーマで、伝統継承-上棟式で地域活動という発表題名で発表させて頂きました。10年前の関ブロ山梨大会での大懇親会で使用した、伝統工法にて造られた小屋組をホテル会場内で上棟式を行なったその小屋組をその後も活用した内容でした。



全体会議 2 表彰式

10年前、「何か楽しい事をしよう」という形で始めたのが仲間の結婚披露宴での余興で、この小屋組での模擬上棟式でした。そこから都留市での地域イベント参加など、様々に活用して来ました。この様な活動を元に発表するにあたり、青年部のみんなで平日の夜集まりシナリオ作りや、パワーポイント作成をみんなの支えもあり綺麗にまとめることが出来ました。

以前から関ブロに参加し、第1分科会を見てきて、「いつかは自分もと思ってきましたが今回発表出来させて頂き、大変貴重な体験をさせてもらいました。そしてなによりも審査員特別賞も頂く事もできたことも、なによりも嬉しく感じました。これからは青年部として、楽しく活動していきたいと思います。発表までに携わってもらった青年部のみんなそして先輩方ありがとうございます！



旧吉田邸



ポーラ美術館



横須賀美術館



多様な目線からの関ブロ大会

青年部副部長 長坂 治

関ブロ大会参加の醍醐味は、個人個人の興味関心から、様々なところに魅力が隠れています。24日に行われた、山梨のみでのポーラ美術館や旧吉田邸、横須賀美術館などの見学ツアーでは、移動の楽しいバスの中で、みなさんから多様な感想をいただきました。

そこには各分科会への関心に加え、第六分科会と命名され個別に動かれた見学や懇親についてなど、参加者の多様な目線を感じ、地元山梨を外から見つめることが出来る場であることを、行動をともに一緒に考えたことで、改めて認識することができました。

来年も多くの方と、ご一緒できることを望んで、この報告とさせていただきます。

街の誇りを取り戻す、廃屋スナック街再生 『新世界通り復活プロジェクト』

建築探訪 小林 進

“織物の街 ふじよしだ。”富士吉田市の下吉田地区に西裏通りという繁華街があり、織物産業の最盛期には映画館やパチンコ店、飲食店、スナックなどが数多くあり、休日には昼間から多くの人でかなり賑わっていた記憶があります。

その西裏通りの脇の路地に「新世界通り」という、かつての繁栄の面影を残すスナック街があります。

道の幅は2m程度で途中路地がクランクしているので、何か不思議な場所に誘われるようで、栄えていた頃には魅力のある街並みだったのではないのでしょうか。

今回の建築探訪は、その新世界通りを復活させようというプロジェクトの中心である、富士吉田みんなの貯金箱財団代表の齊藤智彦さんに、プロジェクトの立ち上げの頃のお話を伺ってきました。

新世界通り復活プロジェクトとは？

かつて織物産業の隆盛とともに、富士吉田は戦後最大の好景気を迎えた。西裏地区のとなりの地区では、毎週2回織物市が開かれ、地域内で織られた生地を売りに来る業者と、それを買い付けに来た人々で賑わった。織物関係者はそこで得たお金をもとに、夜の街である西裏地区へ繰り出した。ガチャマン景気と呼ばれる最盛期には、織物業者がガチャンと1回機を織るごとに、1万円が手に入るといわれるほど儲かった。そうしたお金を旦那衆が景気よく使うことにより「日本三大歓楽街の一つ」と呼ばれるほど盛り上がった。しかし外国から安い製品が入ってくると、織物産業は衰退をはじめた。それにともない西裏の繁華街も衰退していった。40年ほど前、新世界通りは20軒以上の飲み屋でひしめき合っていたが、今では焼き鳥屋が1軒のみとなってしまった。そうしたなか、貯金箱財団では赴きのある昭和レトロの街並みとして、富士吉田を訪れる人々に新世界通りを紹介していきたい。「面白い！ゴールデン街みたい」という感想が多かった。貯金箱財団では当時の賑わいを取り戻そうと、人々が集まる仕掛けを独自のプロセスで創っている。



地域の人に関わる仕掛け

改修や開業にかかる費用が大きいだけでなく、飲食店としての持続的な経営の視点も求められる。建築物としての魅力はもちろんのこと、飲食のテナントが入り、大勢のお客さんが来なくなる空間が求められる。また、立地や耐久性、営業許可など乗り越えるべき課題は山積していた。そのため、飲食店としてオープンする前から、新世界通りの「復活」のイメージを住民と共有し、ともに機運を高めていくことを目指した。オープンしてから呑みにくるのではなく、改修しつくる段階から地域の人と一緒に参加し「新世界通りはなんだか賑わってきた」「楽しい場所だ」という実感が持てる事業を組み立てた。

営業可能な実店舗への改装

老朽化した建物を活かし、営業可能な店舗をつくるには、多くの改装が必要となる。上下水道の接続、建物の構造補強、厨房設備の導入など予算は膨らんでいく。しかし、「廃墟のようなこの物件は、新築そっくりにする必要はなく、今ある魅力を活かして新たな価値観を表現すべきだ」というコンセプトを、計画当初から確認していたため、内外装は最低限の内容に抑える方向性はゆるがなかった。

後記

新世界通りには、2016年2月23日に新世界「まる」「さんかく」「しかく」がオープン。現在、他にも新規テナントが入り、街のにぎわいづくりのためのイベントも多く企画されている。また、独居老人や貧困家庭の方々が気軽に集える「げんき食堂」の場として提供するなど、地域貢献活動も精力的に行っている。



「みつめなおそう山梨 in 南アルプス市 & 韮崎市」バスツアーに参加して

女性部会 広瀬 喜美子

私は南アルプス市や韮崎市には仕事で行ったことがある程度で、今回の見学場所を全く知りませんでした。最初に向かったのは、南アルプス市加賀美にある法善寺でした。822年に空海によって創建されたと伝えられている高野山真言宗の寺院と聞きました。山門をくぐると、ステンレスの骨組みでピラミットのような三角錐の御堂が現れ、その姿に圧倒されます。中央に栈道、両側に池を配して、異種類の組み合わせでありながら、凛として周囲に溶け込んでいるように思えました。

次に向かったのは武田八幡宮です。822年に嵯峨天皇の命により建立され、その後、武田家の氏神となり、1541年に武田信玄により本殿が造営され、戦火や火災の被害もなく建立当時のまま、三間社流造で茅葺屋根のなだらかな曲線が美しく、見応えがありました。

最後に見学したのは韮崎市民族資料館です。ここには、2014年に放送されたNHK朝の連続ドラマ「花子とアン」のセットや、ドラマで教会として使われた建物や主人公の生家も移築しており、ドラマのワンシーンが蘇りました。

館内には韮崎市で発掘された土器や土偶などが時代順に展示されているほか、「JOMON美土偶コンテスト」が2016年9月～10月にネット上で開催され、当館展覧の「ミス石之坪」が堂々の2位になったそうです。因みに、1位は「縄文のビーナス」(長野県茅野市出土)です。関心のある方はぜひ、ネットをご覧ください。

旅行好きの私ですが、足元の山梨について何にも知らないことを痛感いたしました。今回の旅行で古代縄文、武田家の戦国時代から法善寺の現代的御堂と1日で一気に5000年のタイムトラベルが出来き、山梨の新たな発見に出会えたことを楽しみに家路に着きました。

終わりに、楽しい計画を立ててくださった松野部長をはじめ幹事の皆様に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。次回も楽しみにしております。

関ブロ神奈川大会に参加させて頂いて

女性部会 堤 美鈴

初めて関ブロに参加したのは4年前でしたが、各県の活動をお聞きし、仕事の忙しい中時間を作り、切磋琢磨し合い社会に貢献していて、なんて素晴らしいのだろうと感動しました。それと同時に、同じ時間を共有した仲間たちの結びつきも宝物なのだろうと思いました。

今回の神奈川大会では、女性部第5分科会と称し、満開のあじさい電車に乗り、箱根湯本から宮ノ下へ、箱根富士屋ホテルの散策に出掛けました。和と洋の融合、130年余りの時間を経ても、ゆったりと流れている時を感じ、立ち寄るだけでも日頃の忙しさから解放させてくれました。ここでも建築の素晴らしさに触れ、同じ仕事を持つ同士、贅沢な時間を共有させて頂きました。

女性部でも、子供たちに建築の楽しさや素晴らしさを伝えたいと思い、いつか仕事を選んでゆく過程の中で心に残ってくれる事を願いつつ活動を始めました。しかしながら、子供達の純真な心に触れ、却って沢山のものをもらえ、とても有意義な時間となっています。

勉強会はもちろんですが、色々な活動や皆さんのお話から人生を学び、教えてもらってきました。30周年を迎えるにあたり、女性部に参加させて頂いた事に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私の人生の中で広がり、彩りとなり残っています。

これからも沢山の方に参加して頂き、楽しい時間を過ごしてもらえたら嬉しく思います。

